

路上生活者の個人史

第20回

竹中尚文

宮崎 雅晴 氏(仮名)

1970 生まれ。55 歳

私は愛知県の北部、長野県との県境の辺りの田舎で生まれました。愛知県といっても、すごい田舎で近所にはコンビニすらありませんでした。生まれた頃の家庭は、両親と祖父と妹の 5 人家族でした。父親は地元の役場に勤める公務員でした。しかし、私が中学の頃に胃癌で亡くなりました。続いて、祖父が亡くなりました。家族は母親と私と妹の 3 人になりました。

父親は私が中学入学の頃に家を新築していました。父親が亡くなって、新築の家が残りました。母親は静岡出身なのです。家を建てていなかったら、母親は私と妹を連れて静岡に

帰っていただろうと言っていました。実際は新築の家があったので、私たちはそのまま暮らすことになりました。私は地元の中学校、高校を卒業して、就職をしました。22 歳まで地元の土木建築会社で働きました。その時に貯めたお金で、自動車免許を取りました。23 歳の時に大型の免許も取りました。そして地元の運送会社でトラックの運転手をしました。47 歳の時にその運送会社を辞めました。辞めた理由ですか。私はゴールド免許だったので、有効期間が 5 年でした。免許の更新を忘れていました。運転免許の失効に気がついたのが半年後でした。半年以上過ぎていたら、特別の理由がない限り更新はできないといわれました。免許を

取り直すことは考えませんでした。
もう何もする気力がなくなっていました。

そうですねえ、結婚もしていなかったのが気楽でした。結婚なんてしたいと思ったこともありません。妹は結婚をして、都会で暮らしています。私は一人がいいのです、気楽ですからね。ある日、ぼんやりとテレビを見ていました。テレビで大阪のホームレスの番組を流していました。そのままフラリと大阪の西成に出てきました。

日雇い仕事の声がかかります。日雇いや 10 日間の契約の仕事があります。土木や解体の仕事をしています。そうすると、宿舎があります。給料はメチャメチャ安いです。トラックの運転手をしていたときの 3 分の 1 です。それでも何とか暮らせて

います。

母親ですか？たぶん独りで暮らしていると思います。数年前に電話をしたら、実家の電話番号は無くなっていました。母親は生きていたら、80 歳ぐらいだと思います。母親との関係ですか？悪くないですよ。私が出たのは、免許がなくなってヤケになったからです。だから、フラリと何も言わずに家を出ました。母親には何の不満もありません。数年前に偶然に知り合いに出会ったとき、「おまえ、搜索願がでているよ」といわれました。だから、実家に電話したのですよ。でも、電話が使われていないということなので、そのままになっています。

母親が心配？ 心配なんてしてないですよ。私は元気なので。私から。

私はこうした聞き取りをする時、本人に私の意見をいうことはありません。人の人生に是非をいうことはできません。しかし、今回は宮崎さんに言ってしまいました。一度、故郷に帰るべきだと。お母さんの顔を見るべきだと思う、といいました。このインタビューをしたのは去年の 9 月でした。それから、彼の顔を見なくなりました。